

杣総頭と日用総頭の彰功碑

資料館スタッフ 中畑孝史

1. はじめに

木曾や飛騨の伐木運材に従事した杣（伐採担当）、日用（運材担当）には、それぞれに杣総頭*1 と日用総頭*2 と呼ばれた指導者が存在し、その技量が伐木運材の出来不出来に大きく影響した。優秀な総頭は、皇室林野局の信頼も厚く、多くの杣夫・日用に尊敬され、その功績を伝える彰功碑が建立された。

木曾を主として、杣総頭と日用総頭の彰功碑 7 基が建立し、総頭の功績を後世に伝えているが、その存在があまり知られていないと思うことから紹介する。

2. 杣総頭と日用総頭の彰功碑

彰功碑とは、人の功績を世に知らせるために建てられる石碑などで、確認した 7 基の彰功碑は、杣総頭 3 基・日用総頭 4 基で、連名のものが 1 基ある。建立場所は木曾郡内 6 基・中津川市内 1 基で、3 基が国有林内に位置している。杣夫・日用が活躍した頃の明治 41 年から昭和 5 年の間に建立されているが、その内の 5 基が大正時代に建立された。なお、銘文の傭の字は、現代表記で用書きかえる。



場所 木祖村小木曾国有林内

銘文 故日傭総頭 原 柳 蔵 之碑
山田七之助

建立 大正 11 年（1922）9 月

高さ 133cm

参考 木祖村の石造文化財（木祖村教育委員会）*3



場所 上松町新田墓地

銘文 杣総頭橋本三之助彰功碑

建立 明治 41 年（1908）8 月

高さ 166cm

参考 上松町の石造文化財町誌別巻（上松町教育委員会）



場所 上松町小田野（花戸宅）
 銘文 故杣総頭花戸慶吉君碑
 建立 昭和5年（1930）10月
 高さ 188cm
 参考 上松町の石造文化財町誌別巻（上松町教育委員会）



場所 大桑村阿寺国有林内
 銘文 故日傭総頭松島久吉彰功碑
 建立 大正9年（1921）12月
 高さ 190cm
 参考 大桑村の石造文化財調査報告（大桑村教育委員会）



場所 南木曽町三留野東山神社
 銘文 日傭総頭川口浅七之碑
 建立 大正3年（1914年）3月
 高さ 195cm
 参考 南木曽町の石造文化財調査報告（南木曽町教育委員会）



場所 南木曽町三留野東山神社脇
 銘文 日傭総頭西尾金六君碑^{*4}
 帝室林野管理局
 木曾支局長佐佐木和策題字
 木曾名古屋支局伐木関係有志建之
 建立 大正10年（1921）3月
 高さ 173cm
 参考 南木曽町の石造文化財調査報告（南木曽町教育委員会）



場所 中津川市川上国有林内

銘文 故杣総頭三尾徳吉君之碑

建立 大正10年(1921)

高さ 166cm(筆者計測で台座を除く)

南木曾町史跡の「与川渡の石地蔵」は、天保15年(1844)の蛇拔けで亡くなった杣と日用(99名)を供養するため翌年に建立されたが、明治37年(1904)の六十年忌記念碑に西尾金六、松島久吉、原柳蔵の氏名が刻まれている。

なお、彰功碑(三尾徳吉碑を除く)の高さは、参考の調査報告に基づいた。

4. おわりに

飛騨や木曾川沿岸の他地域にも杣総頭と日用総頭の彰功碑や木曾式伐木運材法に関係する碑等が建立されている可能性があると考えている。各地に木曾式運材法の遺構が幾つかあるが、杣総頭と日用総頭の彰功碑は、木曾式伐木運材法を後世に伝えるものであり、これらの彰功碑にも注目してもらいたい。

※1 伐木・造材の技術方面における指導者で、伐木区域における杣の配置を計画し、伐倒から造材までの指導を行う。

※2 日用は運材の専門的労働者のことで、日用総頭は運材の技術的方面を担当し、木曾式運材における留・栈手・堰等の設計者兼実行の指導者である。

※3 調査報告は慰霊碑として分類しているが、本章では彰功碑とした。

※4 『木曾谷伐木の労働組織を回顧す』に西尾金六の氏名が登場する。

参考文献等

北原禎一(1930) 木曾谷伐木の労働組織を回顧す. 御料林第26号. P61~68

木祖村・上松町・大桑村・南木曾町の石造文化財調査報告等